

## 2. 現 在 ま で の 調 査

## 2. 現在までの調査

### 目次

1	RD最終処分場周辺の概要	・・・	1
1.1	地形概要	・・・	1
1.2	地質概要	・・・	4
2	現在までの現地調査と結果	・・・	7
2.1	ボーリング調査	・・・	7
2.2	現場透水試験	・・・	24
2.3	周縁および周辺の地下水調査	・・・	26
2.4	最終処分場内の浸透水および浸出水調査	・・・	29
2.5	最終処分場内の有害物質汚染調査	・・・	31
2.6	硫化水素等ガス調査	・・・	62

# 1 RD最終処分場周辺の概要

## 1.1 地形概要

当該最終処分場は、琵琶湖南東部にあり、古琵琶湖層群よりなる標高90～115m程度の信楽山麓丘陵の北端部に位置している。

周辺の地形は、北側に野洲川、南側には金勝川が琵琶湖に向かって流下しており、処分場がある信楽山麓丘陵の北側、南側はそれぞれの河川の浸食により川岸段丘が形成されている。処分場周辺の地形はやや複雑な様相を呈している。また、処分場の北から西部には、野洲低地、草津低地が広がっている。

次に、図1.1-1および図1.1-2に新旧の地形図を示す。

図1.1-1の地形図は、明治25年測量、明治27～28年に大日本帝國陸地測量部から発行されたものである。集落は主として鉄道沿いおよび街道沿いに分布するほか、河川沿い、山麓部に張り付くように散在している。丘陵地ならびに谷の出口には多くのため池が分布し、灌漑用等に利用されていたと考えられる。

最終処分場周辺の地下水の流向は旧地形図の等高線から判断すると、河川の流下方向と同じように、南側は御園地区から上砥山地区へ流れ、北側は草津あるいは手原方面へ流下しているものと考えられる。

図1.1-2の地形図は平成8～11年に測量、平成9年～11年に国土地理院から発行されたものである。最終処分場北部には名神高速道路が横断し、東部および南部には採石場、ゴルフ場が造られている。とくに南部の丘陵地帯にはJRAの栗東トレーニングセンターが造成され、大きく改変されている。最終処分場周辺では特に大きく人工改変されていない所は、上砥山の耕作地程度である。なお、丘陵地周辺に分布していたため池の多くが、造成により宅地化、耕地化されている。